

対応 実効なし

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭63-46562

⑬ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和63年(1988)3月29日

E 05 B 49/00
B 60 R 25/10
E 05 B 1/00
45/00

6637-2E
2105-3D
7521-2E
7521-2E

審査請求 未請求 (全2頁)

⑮ 考案の名称 電子錠装置の表示窓装置

⑯ 実 願 昭61-141498

⑰ 出 願 昭61(1986)9月16日

⑱ 考 案 者 阿 久 津 昇 治 東京都大田区蒲田2丁目8番2号 国産金属工業株式会社 内

⑲ 考 案 者 小 林 悟 東京都大田区蒲田2丁目8番2号 国産金属工業株式会社 内

⑳ 出 願 人 国産金属工業株式会社 東京都大田区蒲田2丁目8番2号

㉑ 代 理 人 弁理士 秋 山 武

㉒ 実用新案登録請求の範囲

複数の押釦スイッチをドアに設けた電子錠装置の表示窓装置において、押釦スイッチが繰返し操作されたとき警報器が作動する以前に、警報発令の文字がドアに設けられたエスカッションの表面に形成する警報発令表示窓に表示されることを特徴とする電子錠装置の表示窓装置。

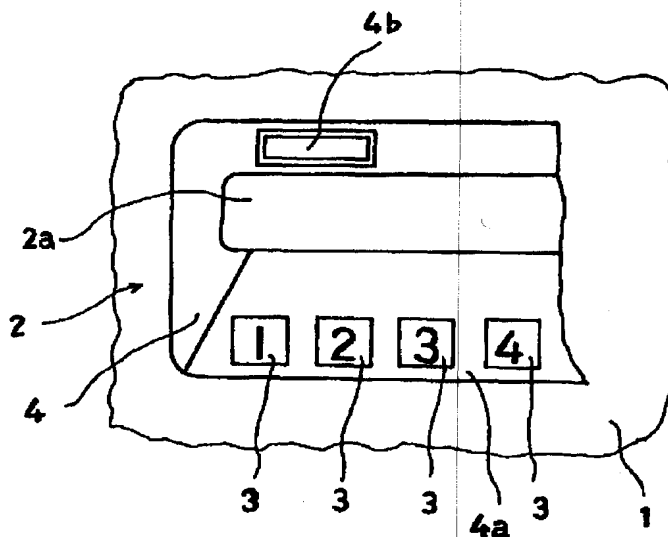
図面の簡単な説明

図は本考案の一実施例であつて、第1図はドア

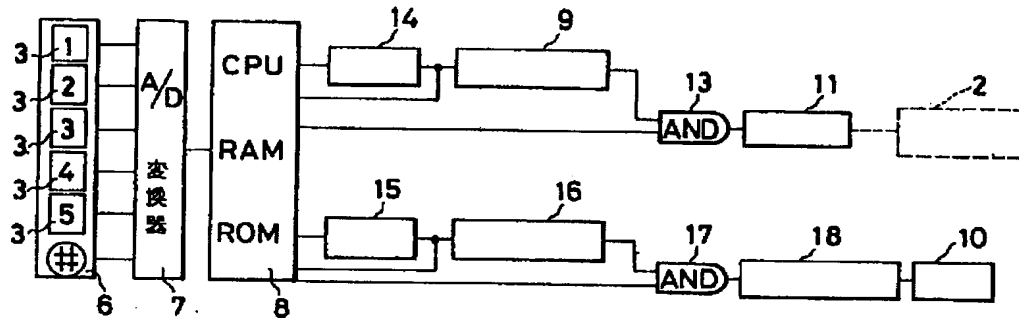
とドアハンドルの一部を切欠したドアハンドル装置の正面図、第2図は電気ブロック図を表わすものである。

1……ドア、2……ドアハンドル装置、2a……ドアハンドル、3……押釦スイッチ、4……エスカッション、6……制御ステーションモジュール、9……第1計数回路、10……警報器、11……文字表示素子、16……第2計数回路。

第1図



第 2 図



⑬ 日本国特許庁(JP)

⑭ 実用新案出願公開

⑮ 公開実用新案公報(U)

昭63- 46562

⑯ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑰ 公開 昭和63年(1988)3月29日

E 05 B 49/00
B 60 R 25/10
E 05 B 1/00
45/006637-2E
2105-3D
7521-2E
7521-2E

審査請求 未請求 (全 頁)

⑱ 考案の名称 電子錠装置の表示窓装置

⑲ 実 願 昭61-141498

⑳ 出 願 昭61(1986)9月16日

㉑ 考 案 者 阿 久 津 昇 治 東京都大田区蒲田2丁目8番2号 国産金属工業株式会社
内㉒ 考 案 者 小 林 悟 東京都大田区蒲田2丁目8番2号 国産金属工業株式会社
内

㉓ 出 願 人 国産金属工業株式会社 東京都大田区蒲田2丁目8番2号

㉔ 代 理 人 弁理士 秋 山 武

明 細 書

1. 考案の名称

電子錠装置の表示窓装置

2. 実用新案登録請求の範囲

複数個の押釦スイッチをドアに設けた電子錠装置の表示窓装置において、押釦スイッチが繰返し操作されたとき警報器が作動する以前に、警報発令の文字がドアに設けられたエスカッションの表面に形成する警報発令表示窓に表示されることを特徴とする電子錠装置の表示窓装置。

3. 考案の詳細な説明

産業上の利用分野

本考案は自動車のドアの車室外側に設けられ且つ複数個の押釦スイッチを設けた所謂電子錠装置の表示窓装置に関するものである。

従来 of 技術

近時の自動車用の電子錠装置は、ドアハンドルまたはこのドアハンドルの近くに設けた複数個の押釦を暗証番号に合わせて、押圧操作すると、ドアの施錠が解錠されるようになっている。

また、このような電子錠装置においては、電子錠に設けられる押釦スイッチが、車室外に露出しているので、この押釦をいたづらや、あるいは盗みのために妄りに操作され易いので、このような不正行為を防止するために、不正行為があるとき、すなわち押釦スイッチが繰り返し操作されると盗難警報を鳴らすようにした所謂盗難警報システムを設けた電子錠装置がある。たとえば、既に刊行物として発行されている特開昭56-105076 や実開昭59-17558などが存在する。

考案が解決しようとする問題点

電子錠装置の押釦はシリンダ錠と違って、キーを必要としないので、いたづらや盗みのときの操作が容易であるために不正行為が多くある。このような不正行為によりドアが開放されたり、あるいは複数回の繰返し操作がおこなわれた時、車体に設けたホーンが作動するようになっているので、たとえ、いたづら行為であっても警報が鳴り盗難と間違ふこともある。しかも警報器が作動しているときはバッテリーを多く消耗するなどの欠点がある。

問題点を解決するための手段

本考案における手段は、電子錠の押釦スイッチが繰返し押圧操作されたとき、警報器が作動する以前に、繰返し操作がおこなわれると、警報器が鳴ることを事前に文字により表示し、この文字をドアに設けたエスカッションの表面に形成する警報発令表示窓に表示することにある。



る。

作 用

複数個の押釦スイッチを繰返し操作したとき、この繰返し操作された回数を第1計数回路で計数し、この計数が第1計数回路の設定値と一致したとき、ドアハンドルを設けたエスカッションの表面に形成する警報発令表示窓に、たとえば「次回は警報が鳴ります」という文字による表示が点灯あるいは点滅し、さらに次の押釦スイッチの操作が加えられたとき第2計数回路の設定値と一致するので警報器が作動し警報を鳴らすことになる。

実施例

以下、本考案の一実施例を図面と共に説明する。

図中、第1図は自動車用ドア1に設けられるドアハンドル装置2の正面図、第2図はエスカ



ッション 4 に形成する警報発令表示窓 4 b に警報発令を文字で表示する電気のブロック図を表わすものである。

ドア 1 にドアハンドル装置 2 が設けられこのドアハンドル装置 2 のエスカッション 4 内に回動自在のドアハンドル 2 a が設けられ、このエスカッション 4 の平面部 4 a に複数個の押釦スイッチ 3 を並列させて設ける。

また、第 2 図において、複数個の押釦スイッチ 3 を設けた暗証番号入力用の制御ステーションモジュール 6 を設け、この制御ステーションモジュール 6 に A/D 変換器 7 を接続し、この A/D 変換器 7 に演算処理機能を有する CPU と書込み RAM と読出し ROM などの記憶素子を有するマイクロコンピュータ 8 を接続する。

また、このマイクロコンピュータ 8 に接続されているタイマー 14 に、押釦スイッチ 3 の操



作回数を計数する第1計数回路9を接続し、またこの第1計数回路9にAND回路13と共に、警報器10が鳴る前に、警報が鳴ることを警報発令表示窓2に液晶で文字を表わす文字表示素子11を接続する。この文字表示素子11は点灯または点滅される。

また、マイクロコンピュータ8に接続されているタイマー15に、第1計数回路9が設定値に達した後、さらに次回の押釦スイッチ3に操作が加えられたとき、この回数を計数する第2計数回路16を接続する。

この第2計数回路16は、AND回路17と警報制御回路18と共に警報器10に接続され、この第2計数回路16の出力は、第1計数回路9の出力がタイマー14により完了し、次回の押釦スイッチ3が押圧操作されたときのみ出力信号を警報器10に印加する。



考案の効果

本考案は、ドアハンドルを収容するエスカッションに警報発令表示窓を設けることにより組み付けが容易となり、しかも警報発令表示窓に警報が鳴る前に文字で警報が次の押釦操作で鳴ることを知らせることにより、不正行為をする者は直ちに押釦操作を止めるので、警報を鳴らすことなく盗難を防止しバッテリーの損失を未然に防止するという効果が得られるものである。

4. 図面の簡単な説明

図は本考案の一実施例であって、第1図はドアとドアハンドルの一部を切欠したドアハンドル装置の正面図、第2図は電気ブロック図を表わすものである。

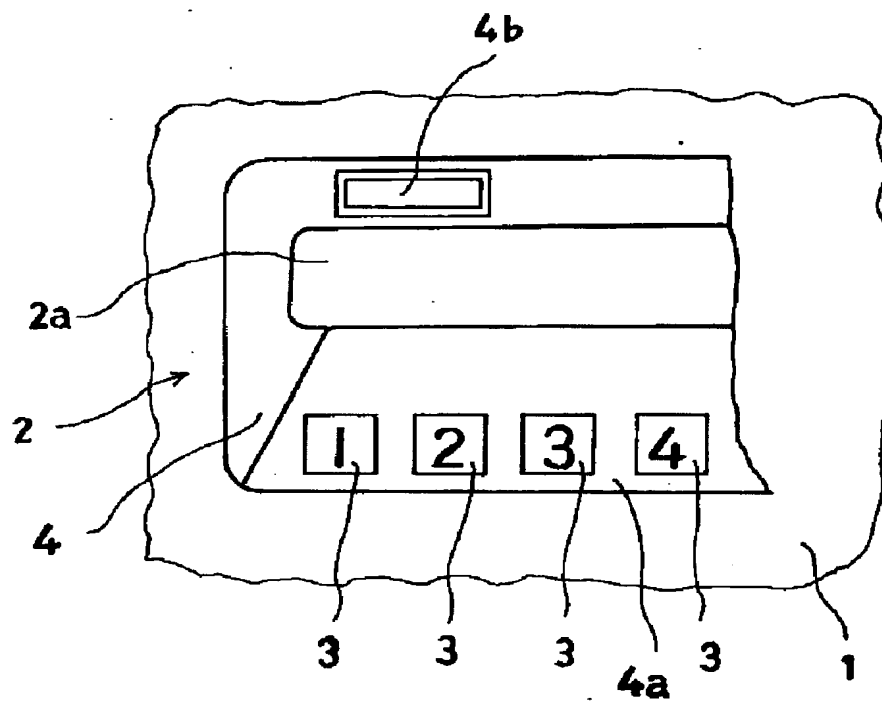
1 … ドア、2 … ドアハンドル装置、2 a … ドアハンドル、3 … 押釦スイッチ、4 … エスカッ

シ ョ ン、 6 … 制 御 ス テ ー シ ョ ン モ ジ ュ ー ル、 9
… 第 1 計 数 回 路、 1 0 … 警 報 器、 1 1 … 文 字 表
示 素 子、 1 6 … 第 2 計 数 回 路。

実用新案登録出願人 国産金属工業株式会社

代 理 人 弁 理 士 秋 山 武

第 1 図



630

実開 63-

